



発行所  
日刊自動車新聞社  
〒105-0012  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2024

7月1日  
(月曜日)

# 中国市場変調に備え

## 過当競争・米中対立による課題など

### 部品各社 撤退せず、やりくり

自動車部品メーカーの業績に中国市場の変調が影響し始めている。新エネルギー車(NEV)が主たる過当競争も、米中対立に伴うサプライチェーン(供給網)の課題などが先々の決算発表でも改めて浮き彫りになった。また、冬の企業は生産再開などの、止血を急ぎつつ、撤退は必ずしも研究開発機能の強化や付加価値戦略などで巻き返す考え。今後数年の行方取りが注目される。

### 研究開発の強化や現地化を推進

中国事業をどう舵取りするか。撤退も選択肢に入りそうだが、タイヤモンドエレクトリックのホルディンクス(HD)の小野有理社長は「一度、撤退する次に入るのが難しい」と語る。当局との関係も含め、微妙な「間合」が必要だ。

### 変化激しく 先行きは不透明

とはいえ、市場や事業の先行きには慎重な見方も多い。明電舎は、26年頃からeアークの量産を予定していたが、現地メーカーのコスト競争を危惧し「時期未定」として計画をいったん見送った。昨年決めた経緯がある。同社は「中国市場は変化が激しい。今後、数年で見えていかねばいけない。ただ、大きな伸びは期待できない」と思う。

「関連部品メーカーの中国市場の進化を遂げた中国の自動車産業。日系自動車メーカーや部品メーカーがどう巻き返すか注目される。」



独自の進化を遂げた中国の自動車産業

### 将来への布石打つ 「凌ぐ年」が続く

▽日系OEM(自動車メーカー)の販売不振に苦戦を強いられた(一)リソリ  
▽中国市場全体の収益(二)キヤセ

### を改善するための生産機能再編を進めている(原田工業)

▽中国経済は不動産市場の悪化や設備投資低迷など、力強さを欠く(日本航空電機)

中国事業をめぐり、部品各社の決算ではこうした苦戦や幹部のコメントが相次いだ。世界的に自動車生産が回復し、ハイブリッド車(HEV)の中国市場は、大半が日系自動車メーカー向け生産を手掛ける。現時点で赤字の子会社はないが、利益率的には最盛期のころの削減で推移するのでは(井上社長)とみる。

古河電気工業の森安英也社長も「電装エレクトロニクスは日系メーカーが主要顧客だが、市場認識は言われている通り(弱)」「と語る。パン「ロー化学の植野富夫社長は「ロックダウン(都市封鎖)の影響が残った22年度と比べ、23年度は変動で増えた。ただ24年度は日系OEMの動きもあり、厳しい状況になりそうだ」と警戒する。日本特

部事業をめぐり、部品各社の決算ではこうした苦戦や幹部のコメントが相次いだ。世界的に自動車生産が回復し、ハイブリッド車(HEV)の中国市場は、大半が日系自動車メーカー向け生産を手掛ける。現時点で赤字の子会社はないが、利益率的には最盛期のころの削減で推移するのでは(井上社長)とみる。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2024年7月1日 日刊自動車新聞 3面 ©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。